

北茨城市環境基本計画（案）に対するパブリックコメントの実施結果について

以下の内容で北茨城市環境基本計画（案）に対するパブリックコメントを実施し、4人の方からご意見をいただきました。

いただいた意見の内容及びそれに対する市の考え方については、以下に示すとおりです。
貴重なご意見ありがとうございました。

1 実施概要

- | | |
|----------|---|
| (1) 案 件 | 北茨城市環境基本計画（案） |
| (2) 実施期間 | 平成27年2月9日（月）～2月20日（金） 12日間 |
| (3) 閲覧場所 | 市役所生活環境課、市立図書館、市民サービスセンター（南部・北部）及び市ホームページ |
| (4) 意見件数 | 14件（4人） |

2 意見概要及び市の考え方（対応）

市民からのご意見	市の考え方
<p>●地球温暖化対策の充実について</p> <p>(1) 風力や太陽光を活用した発電を普及させ、充電や蓄電などを行いながら安定的な供給を図る。</p> <p>(2) 電気自動車や電動アシスト自転車の普及を図る。</p> <p>(3) 充電スタンドの充実を図る。役所やスーパー、コンビニなどにスタンドが増えれば電気自動車も普及すると思う。</p>	<p>電気自動車もエコカーの一種であることから、電気自動車の普及に限定せず、エコカー全体の普及を図るため、P137の最終行に「石油燃料以外をエネルギー源とするエコカーの普及には、エネルギーを供給するためのインフラを整備する必要があります」を追加します。</p>
<p>●計画の推進・実行体制について</p> <p>北茨城市環境基本計画を推進・実行するには、条例第3条の3項目について、市民参加の各提言委員会を設け、具体的な提言をすることにより、市民の環境への興味をひくとともに、安全・安心なまちづくりに取り組んでほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任期は2年（再任は不可） ・人数は各10人 <p>条例第3条を実現するための委員会</p> <p>(1) 生態系の多様性の確保、野生生物の種の保存についての市民委員会</p> <p>(2) 大気汚染、水質汚濁の防止についての市民委員会</p> <p>(3) 資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用についての市民委員会</p>	<p>計画の推進組織として設置予定の「北茨城市の環境を守る会」は市民参加を前提としております（P150）。会の具体的な進め方等については、今回いただいたご意見を参考とし、計画の策定後に検討を始めることといたします。</p>

<p>●人口と世帯数について</p> <p>市の人口は、平成25年10月1日現在で記載されているのに対し、65歳以上の総人口に対する老年人口の割合は、平成26年4月1日現在となっている。できるだけ年月にばらつきがないように、また、最新の統計を記載したほうがよい。</p>	<p>ご指摘のとおりですので、平成26年10月1日現在の数値に修正します。</p> <p>人口44,220人、世帯16,913世帯、1世帯当たり約2.61人、高齢化率28.9%</p>
<p>●里山について（P25. 2. 5（1））</p> <p>海岸沿いには、飛砂防備保安林が松くい虫によって立ち枯れとなっているが、整備の必要があるため計画の中に盛り込んでほしい。</p>	<p>P89の課題として「早急な保全が必要」と認識しており、P90の市の施策において「海岸沿いの松林の保全」に取り組むこととしております。</p>
<p>●生活環境について（P32、P41）</p> <p>市民に対して生活排水の適正処理や野焼きの禁止などの普及啓発に努めるとあるが、家の敷地内でごみを燃やしている家庭があり、苦情としてのみ受け付けるのではなく、普及・啓発及び火災予防の観点から消防署による指導も必要ではないか。簡易焼却炉の使用が禁止されているが、各家庭においても周知徹底を図ってほしい。</p>	<p>野焼きの禁止についてはチラシ等を配布するなど周知を図っておりますが、苦情の連絡も受けております。市民の方などから通報があれば、速やかに現地に向かい、行為が確認された場合は口頭での指導を行っています。火災発生が懸念される場合は消防と連携して対応しており、休日・夜間などは警察に連絡し、対応しています。</p>
<p>●廃棄物について（P44～45）</p> <p>清掃センターは改修されてきたとあるが、耐用年数はあと何年あるのか。その後の計画案も必要ではないか。ごみ処理施設を持たない高萩市との広域のごみ処理焼却施設を考えていってはどうか。</p> <p>リサイクルについて現在5品目を資源物として回収しているが、燃やせるごみの大半はプラスチックと思うので、プラスチックを資源ごみとして回収すれば、ごみの減量化につながる。生ごみを焼却するには燃料費が莫大である。生ごみの堆肥化を進め、循環型農業を進めるべきだと思う。</p>	<p>建物自体は鉄筋コンクリート製であり、耐用年数は50年となりますが、設備については種類によってさまざま、耐用年数が経過する前に設備を更新してきました。将来的な清掃センターの建て替えについては「北茨城市環境施設等整備検討審議会」において検討しているところです。高萩市との連携については、施設の規模等にも関係する今後の大きな検討課題と認識しておりますので、建て替え問題と並行して検討してまいります。</p> <p>プラスチックの回収方法の変更や生ごみの堆肥化については、ごみの減量化に直結するとともに、清掃センターの焼却炉の規模等にも深くかかわってきますので、「北茨城市廃棄物減量等推進審議会」において検討してまいります。また、P44「4. 1（2）ごみ排出削減対策」の文末に『「北茨城市廃棄物減量等推進審議会」において減量に向けて審議してまいります』と追加します。</p>

<p>●市民によるリユース（再利用）活動の取組 （P 5 0）</p> <p>趣味の講座の講師の文章をそのまま載せるのはいかがなものか。個人的な感想は計画にはなじまないのではないか。</p>	<p>現場での活動事例を紹介したもので、気軽にできるリユース（活動）として広く周知することを目的に掲載しました。</p>
<p>●第4章 市の取組（P 8 7～ ）</p> <p>計画としては、目標年度達成のための数値化が必要なのではないか。毎年行うものはどの項目か、数年後の達成目標なのか、具体的に掲載してあったほうが実行しやすいと思う。また、担当する課名があるとより具体的である。</p>	<p>P 1 1 3以降の「第5章 リーディングプロジェクト」と位置づけた取組については、目標年度における数値目標を掲げました。どの課が取り組む項目かについては、計画策定後に設置予定の北茨城市環境保全推進委員会（仮称）及び北茨城市の環境を守る会において検討することといたします。</p>
<p>●P 9 6の課題について</p> <p>公共下水道の早期接続の推進は、遅々として進んでいない。実効性のある事業として計画を策定し、進めていただきたい。</p>	<p>現在、第二期事業認可計画に基づき整備を進めており、今後も社会情勢の変化等に応じた効率的な整備を図ってまいります。また、接続率の向上に努めてまいります。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、P 3 8上段を「市民の衛生的で快適な生活環境を確保するとともに、公共用水域の水質保全を図るため、市街地を中心に公共下水道事業の計画的な整備を行っています。また、平潟地区の一部においては、漁業集落排水事業に取り組んでおり、両事業とも整備区域内における利用促進を図るため、接続加入を推進しています。」に修正します。</p>

<p>●はじめに</p> <p>「本市は住みやすいところだろうか？」と問えば、「ほぼそうだ」と言える。ただし遺産として残せるような町並みや市民が一堂に会せるような大きな施設があり、もう少し欲を言えば温泉があれば言うことなしである。</p> <p>本市は、有史以来農業・林業・漁業といった自然と共存した生活があり、現在も続いている。たとえば土地柄は阿武隈山系に囲まれ、その水源は大北川、花園川、塩田川などとなって田畑を潤し、大海に注がれている。海岸は風光明媚な入り江を形成し、漁場としてもにぎわっている。これらは山地と平地、そして海岸が自然の摂理にかなっていると言える。さらに気候は大雨や大雪が降るわけではなく、概ね温暖である。したがって農作物は何でも収穫でき、食卓をにぎわしている。こうした条件は他に類を見ない住みやすさを提供しており、昔から自給自足のできる安全・安心な生活が営まれてきた。</p> <p>こうしてすばらしい環境に感謝しなければならぬはずなのに、毎年少しずつ汚れてきているのは残念で仕方がない。憂うつになるだけでなく、市民の一人として後世に悔いを残さないようにしたいと考え、微力ながら環境保全について提案することにした。</p>	
<p>●環境計画を拝読して</p> <p>まず思うことは、項目や取組方法、そして課題がくまなく網羅されている。並列的な羅列はそれだけ計画倒れになるのではないかと心配もあるが、本市の実態に鑑みて重点化などの再構築が必要であろうと思う。</p>	<p>たくさんの取組を盛り込みましたが、計画倒れとならないために、庁舎内の推進組織以外にも市民参加の組織として「北茨城市の環境を守る会」を設置して推進してまいります。また、各種施策を先導していく、また優先的に取り組む施策をリーディングプロジェクト（P 1 1 3以降に記載）として位置づけ、具体的な数値目標も掲げました。</p>

<p>●環境保全における本市の実態を知る</p> <p>まず有識者を入れてくまなく汚染の実態を調査し、多くの負荷をかけているものは何か、また潜在能力（自浄能力）はどのくらいかなどを数値化し、類別することが大切である。こうして何を維持し、何を除去していくかがわかる。</p> <p>すでに本市は、後世に負荷を作ってしまったものが二つある。それは産廃処理場からの河川や地下水の汚染と原発事故の汚染が懸念される。つまり近くの様子が何もわからないし、それらが顕在化するまでにはかなりの時間がかかるからである。河川や地下水のモニタリングを継続し、随時公表する必要がある。特に原発の汚染源のセシウムの処理はとても難しい。今までは焼却すればなんとかなったが、半減期まで何十万年もかかるというのだから話にならない。</p>	<p>汚染の実態調査については、市町村単位で取り組めるようなものでもないため、放射能汚染対策にかかる国の施策の実施状況を注視してまいります。</p> <p>河川や地下水のモニタリング調査については、今後も引き続き実施し、市のホームページを通じて公表してまいります。</p>
<p>●主な河川に簡易水力発電所の設置を</p> <p>本市の河川は雑草ばかりでなく、家庭排水の汚れやポイ捨てのビニール袋が散在している。石器時代の貝塚じゃあるまいし、モラルの欠如にうんざりしている。そこで提案である。河川の利用は農産物の治水だけでなく、各河川に簡易発電所を設置して公共施設や市民の電気をまかなう一方で、その電源を使って浄化槽を設置し、下水を浄化するようにしてはどうか。これはまさに本市の電気の自給自足の到来にほかならない。自然に対する負荷は軽減されるし、今流に言えば地方創生を担う原動力になるはずである。</p>	<p>エネルギーの地産地消という現在、国において進められている事業を北茨城市において行った場合の具体策として大変参考となるご意見です。地域資源を最大限に活用し、災害発生時等に電力の供給が停止した場合でも地域内でエネルギーが確保できるという画期的なものと考えます。P122のリーディングプロジェクトのうち「再生可能エネルギー利用拡大プロジェクト」として、導入に向けた調査検討を進めてまいります。東日本大震災時に長期の停電を経験した本市にとりましては、積極的に検討を進めるべき課題と考えております。</p>
<p>●廃棄物の熱源化を</p> <p>先日の茨城新聞で「廃棄物の資源化促進を」という記事を読んで感銘した。筆者はごみの焼却熱をプールや温泉として利用できないかということをご提案する。焼却物が少なければ、山林に間伐材や立ち枯れの木材が無尽にある。それらを使えばよい。これらを推進していけば市民の健康増進に寄与するばかりでなく、山林の再生にも寄与するという一石二鳥の取組になる。つまり山林と漁場が共存するシナリオである。</p>	<p>P105の課題及び市の取組において清掃センター新設の際の検討事項として「廃熱利用などリサイクル機能を有した設備の導入」を明記しており、市としても廃棄物の有効活用について十分に認識しております。また、「間伐材などを有効利用した」バイオマス発電への取組の可能性についても、民間の調査に協力してまいります。</p>

<p>●環境保全の教育を</p> <p>前述したように本市は自然環境に恵まれているだけで、自然のありがたさを感じないところがあるのかもしれない。道ばたにポイ捨てをすれば、やがて海に流れていく。5月の海岸清掃活動に参加すればすぐわかるはずである。犬の糞の処理も然り。こうしたケースは教育の強化を待つほか打開策はないのだろうか。とにかく本市の河川や海は汚い。こうした中では素晴らしい人材は育たないし、郷土愛などはとんでもない。すべてに優先して河川や海の清掃活動をすべきである。</p>	<p>現在、各学校においてさまざまな環境教育が展開されています。周辺道路などの清掃活動を行っている学校もあります。今後は、清掃するだけでなく、どうすればごみのポイ捨てを減らすことができるか、ということまで考えながら活動できるような学習なども検討してまいります。</p>
<p>●おわりに</p> <p>環境問題は、資源やエネルギーが石炭から石油にかわってくる頃から急増してきた。それは科学や産業技術の向上とともに、増産から大量消費へと多くの人間に富をもたらしたからである。しかし、気がつく頃には、もはや潜在能力（自浄作用）を越えていて赤潮や光化学スモッグさらに地球温暖化・海水温の上昇などと取り返しのつかない状況に陥っている。</p> <p>政府は、景気回復を旗印にして設備投資などにやっきになっているが、それでいいのだろうか。ますます環境問題をこじらせていくのではないかと心配である。百年後の本市はどのような町になっているのだろうか。考えてもわくわくするものがないとしたら、とても悲しいことである。</p> <p>筆者は、人間の身勝手さを自制していくことこそ、少しでも打開策に近づく道ではないかと考える。そして最後にどうしても言わねばならないことは、地球の潜在能力（自浄作用）がうまく機能するところまでは人口は減少していくであろうと考える。それが地球の摂理だからである。</p>	